



第十六卷 第四號

(通卷第六十四號)

昭和六年十月發行

研 究

アピアヌス『コスモグラフィア』の書誌的研究

小 野 鐵 二

標題の書物は、第十六世紀から第十七世紀の始めにかけて盛に行はれたもので、版が甚だ多い。其等の諸版に就て一通り書誌的記述をしてみたいと考へ、初版本以下、一五三四年、アントワーブ、ボンテ刊行本までの諸版に關しては、既に『小川博士還曆記念史學地理學論叢』に掲載された『ペトルス・アピアヌスの「コスモグラフィア」最初の諸版に就て』なる拙稿に一應の説明を試みた。よつて茲では、右小文に其の出版事項だけを標記しておいた一五三七年、アントワーブ、ボンテ版、フレミツシュ譯本から記述したい。註記文献の表も右の所に附けておいた。

- 一 一五三七年、アントワーブ、フレミツシュ譯本、デ・ボンテ

此は『コスモグラフィア』の翻譯本として最初のものである。元來刊行部數も少かつたものか、現在知られてゐるのは米國のジョン・カーター・ブラウン文庫所藏の一本だけである。

De Cosmographie rā Pe. || Apianus. En hoemē de Carten der lanſcapū maect || rā Gemā phryſio beſcrevē, allen cōſtigen || eñ ſubly || ten minsché ter liefdē nu ierſt in dhytſche geſedht. || (地球儀の木版畫あり) || 1537. Gregorius de Bonte vcooptſe Tautwerpen indē Schelt vā Basele.

四折。標題は赤及び墨字にて刷る。シケネチユア、 Δ 及び以下に枚數附あり。目次、四葉、本文、五六葉。ロミック字。f. xlvij, 白紙。廻轉圖は、第九、一一(裏)及び四六(裏)葉の三ヶ所にあり、第二のものには AMERICA なる名あり。

フロンヤン、Voleyndt den XXX. dach Junij, An. M. CCCCCXXXVII. || In de vernierde coopſtadt van Anwerpen, op den hoecſt van || der camerpoort binghe, inden Schelt van Basele, || by my Gregorius de-bonte. 尚ほ最後の頁、即ち f. lvi にも印刷者の圖章あり。

フーゾーランキヤスタも、アントワープ、一五三七年刊の翻譯四折本の標題を擧げてゐるが、右記ブラウン文庫目録に擧げらるゝ所とは全く異なる。斯様な異版があるとは考へ難いやうに思はれるが果して後ちの類似標題を有する譯本の出版年紀の見違ひか否か、茲には決定的に斷じ得ない。併しフーゾーランキヤスタは後にも述べるやうに、アントワープ、一六三七年刊譯本を記載してゐる。此の本は其の存在甚だ疑はしいものであるが、一五三七年と一六三七年と何か見誤りといふやうな關係でもあるのではないか¹⁾

二 一五三九年、アントワープ、ビルクマン—G. Coppens de Diest.

Petri Apiani || Cosmographia, per Gemman || Phrysiun, apud Louanienses Medicum ac Mathematicum insignem, restituta. Additis de adem re ipsius || Gemmae Phry. libellis, vt sequens pagina docet. || (例の地球儀圖あり、但し少しく縮まり、方位、『天頂』とも記入なし、向つて右脚の地に接する所に近く・G. とあり) || Yearreunt Antuerpie in pingui gallina Arnoldo Berckmāno. || 1539.

四折。

(一) B M本(10007. 5. 24.) 二四・二六一六・三三〇。シケネチヤ、A—L, 始めの三葉枚數附なし、計四四葉。ローマン。

標題紙裏、目次、詩歌。第(二)葉、一五二四年版に見ゆるアピアヌスのザルツブルグ大司教への獻辭。

(F. o. HD^r—XLI. III^v: 本文、附録、(表の終り) Finis. 直ぐに Studiosis Cosmographie amatoribus post America descriptionem hac adnotatum. と題せる章あり、『アメリカにて一五三〇年發見せられし Peru なる地方』に關して記す、此版初入。
(二) フラウエン文庫本、F. 1. 33—131. (1). 圖章。

此版オルトロイ記載の所在以外がプリン、トリニティ、カレッジ藏書目録にも見ゆ。

此版の B M本は恐らく完本ではなからう。(二)に記した本の枚數附と合致しないだけでなく、目次には『コスモグラフィア』の外、ゲンマ・フリシウスの *De locorum* 及び同人の *De usu annuli astronomici* をも含むやうに記してありながら、實際は上記のやうに、地名表の次にゲンマの『ヘル』に就ての附記があるだけで終つて了つてゐる。またオルトロイは特に此版の圖章を複製してゐるが、其も B M本には見えない。併しオルトロイも此の B M本の完本でない事は指示してゐない。之も

彼がBM所藏のアピアヌスの著作を親しく見なかつたのではないかと思はれる一つの疑點となる。

此版が前の一五三四年と同一でないことは明らかである。例へば新發見地方の記述が加はつたり、*De visis annuli astronomici* が新しく合綴されたりしてゐる。後者は、只今述べたやうな理由で、筆者は此を見得なかつたのであるが、オルトロイによれば、其に附いてゐる献辭の日附は一五三四年二月一日である。併し此の三九年版『コスモグラフィア』に合綴されたのが其の初版であらうといふ。また此の *De visis* は、*グンマの De principis. Antu. Ioan Seelsii. 1548* にも合綴されてゐるとのことである。トレイメルは、此版に初めてグンマの増補があるやうに記すが、其は正しくない。

標題紙裏にある小詩は、オルトロイによれば前記一五三七年フレミッシュ譯本、四四年(佛譯)版にも出てをり、弗譯出版者のボンテが加へたものであるといふ。如何にも當時は出版者が斯様な讚美的な詩文は勿論、もしどうしても必要と思へば、卷末の白地を填める爲に他の書物の中から適當(う)な箇所を採つて來て、此を其の空いた所へ刷つた事もあるのだから、其位のことでは度々あつたであらう。尙ほ此版から地名表は全部一頁二欄に分けて刷つてある。三三年版ではまだ其の終りの方を一頁に擴げてゐた。

圖解は本文同様變つてゐない様である。一々文章で説明すると煩はしいから、諸版に於ける圖解に就てはなるべく略説に止めることにしよう。

此版は頁の白地縁の廣い、字型の悪くない、刷りの美しい版である。

三一五四〇年、アントワープ、ビスマンナーズ・グラーズ

Petri Apiani || Cosmographia, per Gemmam || Physium, apud Louanienses Medicum ac Mathematicum || insignem, Denuo restituta. Additis de eadem re ipsius || Gemmae Phry. libellis; quos sequens pagina docet. || (地球儀の圖) || M.D.XI. || Venenunt Antuerpiæ in pingui gallina Arnoldo Berckmāno.

四折。

(1) BM本 (1925, l. 6), 二三・二五・二六・二七・二八・二九・三〇・三一・三二・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇。A—P, 更にミタネチヨメなちの二葉、MijをHij, NijをMijと誤植す。計六二葉、第六二葉枚数附なし。

標題紙裏、目次、詩歌。第(一)葉、一五二四年版の獻辭。

(Fo. III^r—XLIV^v: 本文。KXXXI: タンペの附記、表頁右欄外に Peru なる見出あり。XLIV^v—XLV^r: 附録…(終り) Libri de Geographiis principis Finis. Fo. XLV^r: Libellus de locorum describendorum ratione, (etc.) Per Gemmam Physium. XLV^r: タンペの獻辭…(終つ) Antwerp p[ri]de Kalendarij Febru. Anno D, 1533. XLV^r—LIII^v: 本文全五章。

Fo. LIII^v: Vnus Annuli, (etc.) LIII^v: 獻辭…(終つ) Ex Loua. Cap^o Feb. 1534. LV^r—LX^v: 本文全二十章。LX^v—LXI^r: Tabella latitudinis aliquot oppidorum insigniorum.

Fo. LXI^r: Index Cosmographiae Pet. Apia. (Fo. LXII^v: 説、耳説…(終つ) Excusum Antuerpiæ opera Aggidiij Copenij.

Anno à Christo nato. 1540 (Fo. LXII) v. 圖章。

(1) B M 本 (531. g. 10(2)), 111・×155・。此本は 531. g. 10(1), 即ち Ciceronis in Arati Phaenomena interpretatio, (etc.) Parisiis apud Simonem Colinaum. M. D. XL. と合綴されてゐる。シグナチュア、Nij を Mij と誤植する外、手蹟書入あり、廻轉圖の仕上つたのが前の本よりも完備してゐる。其他の點では同様である。

此版は本文、圖解共一五三三年版と大同小異であると言ふことが出来よう。ゲンマ・フリシウスの補記の如きも、既に三三年版に見えるものがある。例へば、第一〇葉裏第八章末の Coroll. (|| Coroll. arinum) 『天頂は地平線すすべての部分から等距離の高さに在る』及び第三一葉裏 Abacus 章初の説明五行の如きは其である。併しまた例へば、第一六葉裏、黄道上の恒星表が一五二五年度のもので、此を一五四〇年には直して見る必要がある、其の變化の割合に就ての註が入つたり、地名表には一五三九年版にも無い新記事があつたりする。此の後ちの新入で筆者の氣附いた分は二つある。インド及びインド洋中の諸島に關するものであるが、特に注意すべき程の事柄ではない。地名表中ライスニク、アイスレーベンに關する記事は、まだ初版と大した相違はなく、マルテイン・ルーテルの生地といふ句も省かれてゐない。

四 一五四〇年、アントワープ、デ・ボンテ

此はオルトロイが第三二番、一五四〇年の異版として擧げるところであるが、彼も *Catalogue*

Borinif, no 580. で此版あることを知つただけである。標題のアドレスは Antverpie: Bonhus とあると云ふ。³⁾⁴⁾ 筆者は此版も右のボルルート目録も未見であるから、何等詳しい説明を爲し得ないが、何れビルクマン刊のものも多く異ならないであらうと想像はされる。

尙ほブリュウネによれば、一五四四年刊の佛譯は四〇年版の此本に據つてゐること、ハリスも彼を援用し、フリーゾー・ランキヤスタも同説である。

(附一) 『一五四一年、ニュウルンベルグ』

此版は従來多くの人々が、恐らく實物を見ないで、書目類から其の存在を信せしめられたものである。オルトロイは多分此版は存しないのであらうと説き、アデルング及びグレーセの目録記載を引いてゐる。如何にも此等兩家の辭典及び大目録のやうに廣く行はれた書物に『コスモグラフィア』一五四一年、ニュウルンベルグ版があると記されてあれば、其の實否を一々取調べるまでもなく、一般に其の存在は問題でなくなり、却て存在しないと主張する者が立證の責任を負はなければならない。然るに此事は勿論相當困難で、古書の傳存すると否とは偶然に依ることが少くないと言へるから、確證はなかなか立てられない。先づ傍證を出來るだけ多く累積し、其の大勢によつて蓋然的推斷を下すを以て満足しなければならぬ。之によつて書誌的記述に十二分の慎重さを必要とすることが明白であらう。

筆者の知る所では、始めて此本の存することを知らせたのはアデルング（一七八四）ではなく、更に其よりも三十年前のバウムガルテン、第五卷（一七五四）である。當時ドイツに於て、後者の書誌的雑誌は學者の間によく用ひられたものであるから、アデルングの如き傳記辭典編纂者は當然此を利用したに相違ない。後ちハリスさへグレーセを引き、『*Cofmographia per Gemmann Frifum correcta. Norimb. 1541. in 4to.*』としてゐる。ザビン亦同じ。ヴァルナイジエンは一五四一年（二）と記すが、版地を示さない。四一年に版が二つあつたと言ふのであるが、共にニュウルンベルグで出版されたのかどうかも判らない。フーズー・ランキヤスタに至つて始めて、ニュウルンベルグ、フライブルグ（ブライスガウ）、バーゼル、ヴェネツィアの諸版が擧げられることがあるが、精確な事は知り得ないと記してゐる。然らば何故に斯様な誤が生じたか。此に就て説明を與へることは困難であるが、只だかういふ誤解を生せしめたでもあらう事情を一、二記しておけば、ニュウルンベルグが南ドイツに於ける中心的都市の一つであつて、學藝、印刷の方面でも光彩を放つてゐること（シェーネル、レギオモンターヌス）、アピアヌスは（南）ドイツの學者であるから、其の著者がニュウルンベルグから出ても『然るべき』こと此の町だけでなく一般にドイツからアピアヌスの『コスモグラフィア』が出版されて『よい』し、また出版『されてゐるべき』である』こと等であらう。事實は既に本稿前篇たる『コスモグラフィア』最初の諸版』（五九頁）に述べたやうに、一五七四年、ケルン版が唯だ一つ確實なドイツ國內の出版である。

五 一五四四年、アントワープ、佛譯、*ラ・ギョメテリク・デ・ゲトーム*

La Cosmographie de Pierre || Apian, libure tresutile, traictant de toutes les regions & pays || du monde par artifice Astronomicque, nouvellemēt traduit || de Latin en Francois. Et par Gemma Frison Mothema — || ticien & Docteur en Medicine de Louvain corrigē. || Auecq autres libures du mesme Gemma Fr. appartenantz || audict artifice, cōme ja page ensuyuante la declare. || (四〇年版との地球儀圖) || M. D. XLIII. || On les vend en Anuers sur le pont de chambre chez Gregoire Bonte || a l'escu de Basle, imprimez en Latin, Francois, & Flameng.

四折。版面一八〇×一一二mm (アトキンメン) A—F⁴, G², H—R² (Aij) — (Rij) 2 III—LXV の枚數附むつゝ總計六六葉。ロレーン。標題紙裏、目次、詩歌。第(一)葉、*Au beuing Lecteur*…日附は、*Danneus Ian de nostre Salut*. 1544. 第二五葉裏と第二六葉表とに於て世界圖あり。

最後即ち第(六)葉表、*Absoluit est cest zature Cosmographicque de Peere Apian, auecq autres liures de la mesme science, Aux despens communs de Gemma Frison, & Gregoire Bonte. Imprimez en Anuers par Gillis de Diest, au moyz Daoust. 1544.* 同裏、*ラ・ギョメテリク*の圖章。

右の要項はオルトロイ、アトキンソン其他を参照して纏めたものである。

まづ此本の大きさに就ては、オルトロイは八折本と言ひ、ハリスは、“*elongated 4to*”と記す。折

帖が幾折のものであるかを決定するのは必しも容易でない。シグネチュアが、例へば A¹B¹C¹...
D¹E¹...といふ風に、四枚組になつてゐるから必ず四折本とは限らない。實物に就てウォータマーク(漉
込標)やワイヤライン縦横を見、始めて決し得るものである。従つて此本未見の筆者としては、四折
本とは想像しつゝも若干の疑を挿んでおくに止める。

此版はフランス譯初版であるが、譯者はラランドによればゲンマ・フリシウスである。併し標題に
はゲンマ改訂とは記してあるが、翻譯とは書いてない。アデルングはボンテの譯のやうに記してゐ
る。何れにしても既述の如く一五四〇年版を臺本として翻譯が行はれた。フリシウスとボンテとが費
用を共同に負擔して此を出版した事は、コロフォンの直ぐ上に刷つてあるので分る、第(六六)葉表の
記事、右記要項中にあるのを参照されたい。且つ一五五一年バリ、佛譯本も此の四四年佛譯本に基いた
もので、變化僅少、章もすべて同様である、併し“Hekatoschi”の短い節が第二七葉に加はつてゐる。
(オルトロイ)。斯くて此版は、序文にも特に此版の爲のものが掲げられてをり、フリシウスの述作も
加はつた『コスモグラフィア』の最初の譯本であるが、尙ほ圖解でも、イサゴーゲ標題紙の粗な圓形舊
世界圖が此版から見えなくなり、其他多少の變化がある外、注意すべき新圖が入つてゐる。前記第二
五―二六葉の世界地圖が即ち其である。斯様なわけで此版は相當重要なものと言へる。

此の新しく加はつた世界圖は、時として心形(世界)圖と呼ばれることもある。アビアヌスの心形圖

は傳へにだけ残つて、實物は永く見當らなかつたが、遂に其も世に現はれた。天下一本の此の地圖の事は既に『最初の諸版』一頁に少し述べておいた。而も此圖が實際再發見されるまでは、アピアヌスの心形圖とは一五二〇年の彼れの世界圖、或は『コスモグラフィア』後と版に見える二頁に互る世界地圖を言ふものであらうと考へられた。けれども一五二〇年の地圖は、心形と言へないではないにしても餘りに扁たすぎるし、此の四四年及び以後の諸版に出てゐる圖も、形の上から同様に言へるだけでなく、實にアピアヌスの作に非ずしてフリシウスの手に成る。且つ此の圖が一層大きな地圖から縮められたものである事は、『コスモグラフィア』二五五三、六一、七三年の三つのフレミッシュ版目次に *Generale Carte der werelt gheconteynt na de groote Carte van M. Gemma Frigio.* とあるので分る。一五九五、九八、一六〇九年の三つのフレミッシュ版の目次も此に似てゐる。此の地圖は更に其の投影法を研究する時、興味ある問題を提供するのであるが、茲にはその様な方面までは説かないことにする。此の圖の複製は Lelewel, Atlas, 圖版四六、一二八番 Nordenskjöld, Raksmile-Atlas, 圖版四四、及び Kretschmer, Entdeckung, Atlas, 圖版一九にあるが、後者の二つは何れも一五五一年パリ版の世界圖を複寫したものである(オルトロイ)。

尙ほ此版の圖解(第七、八(表)、九(裏)、一七(裏)葉)は一五九九年版のそれ(第五、九(裏)、二八葉)と共に、左記書物の第一四、一八、一七、二九、六、三三、一六頁に夫々再出してゐる由である。 *Tractat ofte Handlinge van het gebruik der Hemelsche ende Aertlicher Globe. Ghecommenceert naer die Bollen, die erste ghesonden zijn in Engelandts door Io. Hondium, anno*

1693 (= 1593), *ende nu gaants door ten seften vernieuwt, ... In Latijn beschreven / door Robertum Hues, Mathematicum, nu in Nederlandsch overgheset / ... Door J. Hondium, Pansleerdam, ... by Cornelis Claesz... A. M. D. XCVII. (オルトロイ)*。茲に見え
る C. Claesoon は『コスモグラフィア』最後の諸版の出版者である。『コスモグラフィア』の圖解の版木が手に入ったため、其の
ち右の『天球儀地球儀用法論』の挿圖として適當なものを其の方へ再用了のであらう。斯様な流用は此の時代としては寧ろ自然で
其の徑路もたやすく推察し得られる。

クレマンは、此版や『イタリア譯、アントワープ、一五七五年』、蘭譯、同地、一五九二年、同、ア
ムステルダム、一五九八年の諸版が原本よりも遙に稀本であると述べてゐる。如何にも其は事實で、後
ちの二つの版は時代が後であるに拘らず傳存するもの多からざる模様である。此の四四年佛譯本も其
の傾があり、オルトロイの擧示する所九部に止まる。内三部はパリの Bibliothèque Nationale に在る。
併し『伊譯、アントワープ』本は、數多い『コスモグラフィア』の幽靈版の一つらしく見える。⁶⁾

六 一五四四年、アントワープ、佛譯、デ・ボンテーデ・ディースト、他版

此はオルトロイによれば、ブラウン文庫にだけ藏されてゐる。併し前の(五)と大した變りがあるわ
けではなく、標題が多少相違してゐるだけである。即ち其の第一、二行は同じであるが、第三行の
“Astronomicque”の次が、此本では

...; nouvellement tra // duit de Latin en François. Et par Gemma Frison Mathe // maticien &

Docteur en médecine...||...

ドクトール
メデシネ

七一五四五年、アントワープ、チ・ボンテレーラ・チーネーノ

Cosmographia || Petri Apiani, per Gemmann Frisium || apud Louanienses Medicum & Mathematicum insignem, || iam demum ab omnibus vindicata mendis, ac non || nullis quog; locis aucta.

Additis eiusdem argu - || menti libellis ipsius Gemmae Frisii. || (地球儀圖) || M. D. XLV. || Venenit Antuerpiae sub scuto Basiliensi, Gregorio Bontio.

四折。B M本 (10004.92.) ニ三一・八一五・五十。ニヤネキチノマ、A—H、K—S、(T)。世界圖説等あり。初の二葉枚數附なり。

標題紙裏、目次、二行詩等。(A五): 獻辭、初版に出づ。フヨマンヌのもの。

Fo. 1r—48r: 本文。

Fo. 29r—24r: De neotericorum hydrographorum ventis, & de nauigadi artificio, deq; inuenienda longitudinis differentia. Additio Gem. Frisii: 新入、此に續く。Quadratum nauticum Gemmae Frisii, 4つ。

Fo. 48v—50v: 附録。

Fo. 51r—57v: Libellus de locorum, etc. 全七章、圖解入。

Fo. 58r—65r: Vnus annali astronomici.

Fo. 65v—68r: Index Cosmographia... & Libellorum Gemmae Frisii... 語... (終つ) Excusum Antuerpiae, opera Aeg.

フヨマンヌ『コスモグラフィヤ』の書誌的研究

第十六卷 第四號 五四九

Dishemij. Anno à Christo humane salutis Authore nato. 1545. Fo. 63v : 圖章

此本の大きさについては、ブラウン文庫目錄初版（一八六五—六六）にはフォリオとある。併し此の記事を引いたらしいサピンには四折としてある。

此のラテン版には新しい補入記事があつて、アビアヌスの『コスモグラフィア』からアビアヌスリシウスのそれへの道程を更に一步進んだものである。次に其の變化の例二、三を舉げてみよう。

フリシウスの記事新入は、第一葉裏、黃道に於ける恒星表の前、第二三——二四葉の記事、地名表では、第四二葉裏の Calicutium, 四三葉表の India orientali, 四五葉の Islandae（此の箇所にはG. Fr. と記してはない）、四七葉表の Moluccae, 同裏の Taprobana, 同所印度洋諸島に關する短い記事、四八葉表の Tana である。また新入でないまでも改訂或は増補された箇所がある。例へば地名表のうちでは、第三四葉表右欄のライスニクの記事には、従來見えてゐた Evangelicae 云々の所が削られ、同裏の『アイスレーベン』では單に “Yszleubia, vulgo Eyszleubden. 29.20|51.46” とあるだけで、ルーテル云々の文句は無くなつてゐる。第四二葉裏のガンジス河に關する註記も、一五三九、四〇年諸版にあつたが、此版では増補されてゐる。

記事が斯様に變つてゐると共に、圖解も、根本的には同趣旨ながら、圖柄などに變化を來した所が少からず見受けられる。之に就ては既に『最初の諸版』四三頁に表を作り、四四頁に若干の説明を加へ

ておいたから、其の方をも參看されんことを願ふ。就中注意されるのは第七葉表のクリーマタを示す圖で、これまでは北が下、南が上になつてゐたのを、此版に至つて北を上にした。圖柄も他の諸圖と同様、從來のからは變つてゐる。また此偶然印刷上の誤で北が上になつたのではなく、始めからさうする積りで版を彫つたのである。其は圖柄上下の有様から想像される。第十五葉裏の地球の大きさを記す圖は、此版から大きくなつて舊世界を表はす半球圖となり、地名も入つてゐる。周の記事はやはりローマン首字であるが、ドイツ哩だけでなく、イタリア哩での周の長さも記してある。徑の長さは前諸版にはイタリア哩を横、ドイツ哩を縦に入れてあつたが、此版では其を反對にしてゐる。第二〇葉裏、標題紙にある地球儀圖の再出では、*Zenith* が活字になつてゐるが、『東、西』はまだ木版のまゝである。第二四葉表には新入の方位(或は寧ろ風位)盤の圖がある。其の代りに十二の風頭のある粗末な圓形舊世界圖はなくなつてゐる。オルトロイに従へば、此の方位盤圖はフリシウスのアストロレープ(天體等の位置觀測器)論にも出てゐることである。即ち *Gemmae Frisii medicæ ac Mathematicæ De Astrolabo Catholico Liber... Antu... Ioan. Steelsii. MDLVI.* の第一五二—五三葉の間に別刷として加はつてゐる。

次に此等の變化は果して此の四五年版に發したものであらうか。前の四四年フランス譯本に就て、其が若干の點でそれまでの諸版とは違つてゐること、殊にフリシウスの二頁大の世界圖が加はつたこ

とを述べておいた。之から考へると、四四年版の本文は四〇年ラテン版によつた翻譯であるから、四五年ラテン版の増補改訂の箇所が此の譯本から採られたとも思へない。併し挿圖の方はどうであらうか。右記世界圖が四四年版に初見すること、四五年版と四〇年及びそれ以前の諸版との圖解には相當著しい相違があることから推せば、先に『最初の諸版』四四頁に疑を存しておいたやうに四五年に發すると只今筆者が考へてゐる多數挿圖の變化も、實は四四（或は他の）年の版に起つたものかも知れない。此點は四四年佛譯本を調べれば大體直ぐに解決されることで、筆者は其の機會の速く來るやう願つてゐる。⁸⁾

八 一五四五年、アントワープ、フレミッシュ譯、デ・ボンテー・デ・ダイースト

Cosmographie, | oft Beschryuinghe der gheheelder werelt van Pe- || trus Apianus. Anderwert geoorrigteert van Gem || ma Phrysiso Mathematicien en Doctoor in Medt || cinen | met diuersche boeckkens byde seluen Gem || ma daer toeghehaen | alst aen dander syde blyckt. || (地球儀の圖) || M. D. XLV. || Gregorius de Bonte vercooptse Tantwerpen || in den schilt van Basele | op de cammerpoort - || brughe | in Latijn | Duytsch | en Walsch.

四折。シクネチヌス、A—G, I, H, J, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y, Z, H は本文外になり心形世界圖を掲ぐ、枚數附、計六八葉。

ゴシツク字。

此の標題紙の記事及び要項はオルトロイによる。尙ほ彼は、此の譯本は多分三七年譯の再版であらうと言つてゐる。地名表中には Brabant, Calicut 其他補はれ、圖解にも刷込の位置其他の變化が幾らかあるさうであるが、前項に述べたやうな事情で、三七—四五年版の間に挿圖の相違が存するとは、如何にもさうありさうな事である。

此版は今ルーヴァン大學圖書館に一本あるのみで、フーゾー||ランキャスタが一五四五年版稀本として擧げてゐるのは、ラテン版ではなく此の弗譯本のことかも知らない。⁹⁾

附二 一五四七年版

ピネロが擧ぐるところ、『ラテン版』なるも版地を示さない。他書には此版に關する記事を見なかつた。¹⁰⁾

附三 一五四八年、アントワープ版

ヘンドライヒが “Cosmogr. Apian cum Gem: Frisii producti alias Antv. 1548. 1553. …” と記す版であるが、彼も此版を主記入とし、ゐるのではない。一五五三年のアントワープ版は確かに刊行され、

他書にも記載があるが、四八年アントワープ版はスペイン譯でなければ存しないやうである。然るに此の譯本はヘンドライヒも他の所(次項註參照)で擧げてゐるから、彼は何かの事情で四八年にラテン版も出たと考へたか、或は單に四八年スペイン譯本からの聯想で四八年(ラテン版)と記したのであらう。他の書物には、四八年版といへばスペイン譯本より外に記してないやうに思はれる。¹¹⁾

九 一五四八年、アントワープ、スペイン譯、デ・ボンテ

Libro dela || Cosmographia || De Pedro Apiano, el qual trata la descripcion del Mun — || do, y sus partes, por muy claro y lindo artificio, augmēta — || do por el doctissimo varon Gemma Frisio, doctor en Me || decina, y Mathematico excellentissimo : con otros || dos libros del dicho Gemma, de la materia mesma. || Agora nueuamēte traduzidos en Romāce Castellano. || (地球儀(圖)) || M. D. XLVIII. || Vendese en Enveres en casa de Gregorio Bonito en el escudo de Basilea. Cum Gratia & Privillegio.

四折。B M本(C. 62. c. 14.) ニ二・二〇一四・八ハ。シガネチユバ、デー・フ、エ、エ、最初及び最後の各二葉枚數附なし、計七二葉。一頁四四行。ローマン。

標題紙裏に版權に關する公許あり。 Prohibido esta por privilegio cōcedido y otorgado de la S. C. C. M. del Emperador Don Carlos quinto deste nombre, etc. (條一) por su Magestad en la villa de Bruxelas los veinte tres dias de Março, del año MII

Quinientos y Quarenta y siete. Firmado por el Secretario Facarvez. 冊に於て題頁に El Libro al Estudioso de Cosmographias.

.....

(A. II) : 献辭 Al muy Magnifico Señor Francisco Duarte, Proveedor de las armadas y exercitos de su M. y de su Consejo de guerra, &c. mi Señor.

(Fo. 1)^r — (Fo. 70)^r : 本末。

fo. 27^v : Quadrado para navegar por Gemma Frisio. sig. K (fo. 34-35-40) : Carta cosmographica, con los nombres propiedad y vertu delos vent s. fo. 52^v : Añadidura de Pedro Apiano, etc.

fo. 55^r — 61^v : Librito dela manera descuir o situar los lugares, y de hallar las distancias de aquellos, nunca vista hasta agora, por Gemma Frisio.

fo. 62^r — 68^v : Vso del Anillo Astronomico compuesto por Gemma Frisio.

fo. (69), r-v : Tabla dela latitud o anchura de algunos lugares mas insignes, por grados y minutos.

fo. (69)^v — (70)^r : Tabla dela Cosmographia de Pedro Apiano, y delos libritos de Gemma Frisio dela materia mesma.

fo. (70)^v : 圖章 (ポニー) Diligere parentes, prima natura lex. Va. Max. Lib. V.

此版はスペイン譯初版で、一五四五年ラテン版によつた(オルトロイ)。「皇帝ドン・カルロス五世」の知遇に浴したアピアヌスの主著(廣く行はれた點から見れば、茲に始めてカルロスと切つても切れない關係にあるスペイン語で現れたわけである。標題紙裏の公告は尤も注意すべく、此等の特權によつて、アピアヌスが幾許でも實質的利益を得たかは甚だ疑はしいが、斯様な特權を賦與される程盛行した書物の著者であるといふ事が既に一種の名譽に相違なからう。フリシウスはアピアヌスと共著した

わけではなく、さういふ風な記事もあるけれども、兩人が直接交渉を有つてゐた確證さへないのである。アントワーブ諸版の刊行に就ては、フリシウスが編著者として主要の地位にあり、其だけに特權狀でも直接利害の關係が及んだに違ひない。而も當時の版權は國際的には保護されず、たゞ其の特權を與へた君主の統治權の及ぶ範圍に於て、法益として享受され得たものらしい。

右の要目中、第六九葉表裏の著名市府緯度表はアピアヌスの『コスモグラフィア』の地名表とはまた別のもので、四〇年ビルクマン版第六〇(裏)―六一葉表にある表を承繼し、もとくゞゲンマが入れたものである。『著名市府』即ち此の譯本では *Insignes mas insignes*、四〇年版では *oppida insignia* と稱するのは、ギリシア時代の *poleis episenoi* 以來一種の地理書用成句である、(『最初の諸版』二五頁參照)。

本文での新入は、第二〇(表)―二一葉表の平方の表と其の説明とである。此は兩地間距離算出の手續を簡單にするために作られたものである。地名表でも四五年ラテン版にある補入は此版にも大抵ある。即ちゲンマ・フリシウスと明記してある補記は、第四六葉裏、*Calcutium*、第四七葉表、*India orientalis*、第五一葉表、*Molucas*、同裏、マダガスカル島の前の數箇所である。併し第四九葉裏、*Islandia* の説明は此本には無い。

オルトロイは、此版では圖解も亦た四五年ラテン版のものを出してゐると説くが、兩版間々相違も

ある。(一) 從來屢々補訂されてゐる月蝕圖を見ると、四五年版では一五二三——三七年の十二個を省き、一五七二年六月及び七三年九月のを加へて二十六個とし、蝕の時刻を改めた分もあつた。此本 (fo. 12v. 13v) では更に一五七六、七七、七八年の分を入れたから、此の表は一五三八年五月十三日の部分蝕から、一五七八年九月十三日の部分蝕までを含むことになつた。(二) 十二風頭のある粗末な圓形舊世界圖は、オルトロイによれば一五四四年佛譯本から見えなくなつてゐる由であるが、四五年版にも無いことは既に述べた。所が此のスペイン譯本では、第二六葉表に南を上にした元の形のまゝで復活してゐる。方位は全く記入されて居らない。此圖の斯様な復活は他の版にも例がないではない。(三) 第二七葉裏の方位盤圖は、四五年版には最早見えるもので、新圖ではない。方位の名稱は、フレミツシュとイタリア語(此の方は四つだけ)とで記す。(四) フリシウスの例の扁心形世界圖もあるが無論新圖ではない。圖の枠内ではラテン語を使つてゐる。題にあるやうに、風が其の吹く方位によつて種々の性質を有することを表はす。人の生活に對する風の影響に就て、斯様に抽象的な種々の議論を立てることは、古代、中世に於ける西洋の氣候論、環境説の一特徴であらう。(五) 最後に見える圖章は、『コスモグラフィア』では珍しい繪で、ウアレリウス・マキシムス (Valerius Maximus) 傳ふところの、キモン (Cimon) の娘ペーローネ (Perone) が、餓死の刑に處せられた彼を自分の乳で養ひ救つたといふ話を描いてゐる。

此本は割合に多く残つてゐない様子で、オルトロイも六部の所在を擧げるだけである。¹²⁾

附四 一五五〇年、アムステルダム版

始めグレーセが四折本として挙げた版で、一フロリン四八クローネといふ一賣價をも記してゐる。フーゾーランキヤスタも此版を示すが、オルトロイは兩者を引き、而も此版實は存しないのであらうと推斷してゐる。¹³⁾

一〇 一五五〇年、アントワープ、デ・ボンテ—デ・デースト

Cosmographia || Petri Apiani, per Gemmam Frisium || apud Iouanienses Medicum & Mathematicum insignem, || iam demum ab omnibus vindicata mendis, ac non - || nullis quoq; locis aucta. Additis eiusdem argu || menti libellis ipsius Gemmae Frisij. || (地球儀の圖) || Veniunt Antuerpiae sub scuto Basiliensi, Gregorio Bontio. || M. D. I.

四折。B. M. 本 (Voy. 103.) : 三三・三三・三三・三三。M. N. K. H. A. — E. F. G. (Frisij), G. — H. (D. ?), K. — S. 表裏の二葉 (F) 及び最後の二葉は枚數附なし、即ち Fo. (2) 1—30, (2) 31—65 (1). 一頁四五行。ローマン。

標題紙裏、目次、二行詩。A. J. P. V. : 原著者一五二四年本に於ける跋辭再出。

Fo. 1^r — 48^r : 本文。Fo. 48^v — 50^v : 附録。

Fo. 51^r — 57^v : Libellus de locorum describendorum ratione, etc. Per Gemmam Frisium. 全七章、翻入。

Fo. 59r-65r: *Vetus annuli astronomici. Gemma Priso Mathematico autore.* 全二十章、圖入。

Fo. 65r: *Index Cosmographiae Petri Apiani, & Libellorum Gemmae Prisi.* (Fo. 66)r: 歌…(終り)、*プロンケン、Antuerpie*
excudebat Gregorio Bontio, Aegidius Diesh. anno à Christo humane salutis autore nato 1550. (Fo. 66)v: 圖章、一五四八年ス
メイン譯本にあると同じ(キーモンとマローネの繪等)グレゴリオ・デ・ボンテのもの。

『コスモグラフィア』の他の諸版は、B Mでは大抵第十九世紀の間に入庫してゐるが、此の本は、巻尾押捺の日附印によれば一九〇六年(?)に受入れられたやうである。オルトロイも四部の所在を擧げるだけで、此の『第三八番』の記事だけから見れば初版以上に少い本である。尤もオルトロイの記す四部の所在のうち、大英博物館にはプレスマーク 568. e. II. (2). の本があるとしてゐる。併し此本は實はオルトロイの第三八番ではなく、第三九番に屬すべき一層普通な版である。オルトロイが『アビアヌス書誌』を編んだ時には、B Mに彼れの第三八番に入るべき『コスモグラフィア』はなかつたわけである。而も其後 *Voyn.* 103. 本が加はつた爲、B Mには一五五〇年の兩版とも揃ふことになつた。此の考へ方には、(一)前記日附印の見誤りがなく、(二)プレスマークの變更もなかつたことを前提とするが、(一)に就ては此を一九〇〇と見るのは困難と思ふし、(二)プレスマークの變更は、他の諸版から類推して、行はれなかつたと考へられるし、此本のフライ・リーフ裏、標題紙に對する頁には鉛筆で *Voyn.* 103. とだけ記入してある。斯様に鉛筆で表紙裏や見返裏頁にプレスマークを記入することは、B Mの

恒例であるが、もし番號を變更した場合には、舊番を横線で抹殺して新番號を書き入れる。此本にはプレスマークは只だ一つしか記してないから、其の變更もなかつたに違ひない。

此本は四五年版と本文、圖解とも大差ない。本文から述べれば、アビアヌスの書いた部分、此にフリシウスが補入した記事、共に殆ど變りがない。併し之を四八年スペイン版に比べると、兩地間の距離算出に用ひる平方の表と其の説明などは、四八年版に出てゐて此の五〇年版には無いから、聊か逆行的の氣味もある。地名經緯度表のフリシウス補記は四五年版と同じで、ライスニク及びアイスレーベンの記事も全く變つてゐない。プロトレマイオス其他に據ることを明らかにしてゐる箇所もある。星標を附して圖解に於ても、四八年版では月蝕の圖に補入があつたのに、此の版では其が一つも加はつて居らず、四五年版と同様二六個に止まる。併し一方四八年版では風頭のある粗な舊世界圖が復活したが、此版では再び削られてゐる。世界圖は本文外の(三)に刷られ、枚數のうちに入つてゐない。廻轉圖は第八葉裏、一一葉裏、二八葉表及び四九葉表にある。

右の次第で、此のラテン版は一五四五年版の再版と見るべきであらう。¹⁴⁾

一一 一五五〇年、アントワープ、デ・ボンテーデ・ディリスト

筆者が入手した五〇年版は、此の Vorn. 103 本と殆ど全く同じであるが、標題紙の刊年が出版者

の上に刷られ、且つ第五〇葉裏に二つの部分圖が貼附してないといふ二つの僅かな相違がある。其だ
 けで版が異なるといふことは如何かと思ふし、殊に後ちの點の違ひは全く偶然であり得るが、前諸版
 からの取扱ひ方もあるから、茲に別項として出しておく。尙ほ嚴密に言ふと、オルトロイの示す標題
 と Voyn. 103 本のそれとも、Frisium の次にコンマの有ると無いとの相違があるが、此を以て別版を
 設けるべきでもあるかも知れない。

一二 一五五〇年、アントワープ、デ・ボンラーデ・ティースト

Cosmographia || Petri Apiani, per Gemmann Frisium || || || ac non || nullis quoque locis
 aucta. Additis eiusdem ar- || gumenti libellis ipsius Gemmae Frisij. || (地球儀の圖) Venient
 Antuerpiae sub scuto Basiliensi, Gregorio Bontio. || M. D. I.

四折、BM本(568. c. II. (2)) 二二・一五五五。シグネチエム、A—C、E—G、(D)²、K—S。即ち D の一折帖(Fo. II
 —14.) 及び H²(Fo. 28—29) 脱落。最初及び最後の各二葉及び P(Fo. 51) 枚数附な。ローヤン。

標題紙裏、目次等。Adj. 一：一五二四年版に見えし原著者の獻辭。

Fo. Jr — 48^r : 本文。Fo. 48^v — 50^v : 附録。Fo. 30 — 31 の間に別國世界地圖一枚折込、即ち (D)² に當る。

(Fo. 51)^r — 57^v : Libellus de locorum describendorum ratione, ..., per Gemmann Fris. 全七章、圖解入。

Fo. 58^r — (65)^r : Vasa annuli astronomici. Gemma Frisio Mathematico Autore.

(Fo. 65)^v : Index, etc. (Fo. 66)^r : 歌。… (終り) ノロンホム、Antuerpiae excusum Gregorio Bontio typis Drieschemij, anno 1550.

Christo humane salutis auctore nato 1550. (Fo. 65) v. グレゴリオ・オ・ボンテの圖章(キーモンとペーローネの繪など)

右の標題は五〇年他版と不同の所を主として示したが、此をオルトロイの書誌第三九番に示すとくらと比べると、“Gemmae Frisij”が“Gemmae Frisii”となつてゐるだけで、他に違ひはない。此の二ヶ所の異同も、オルトロイが書き直した爲に生じたものであらう(?)コロフォンもオルトロイ第三九番記載と全く同じで、第三八番とは異なる。之を以てB M本 1558. e. II. (21)はオルトロイ第三九番に當るとなすべきである。併し標題の些少な不同から、五〇年の此版にも亦た一つの variante を想定するまでの必要はなからう。

此等五〇年の數版の差違は、(一)標題の相異なること、(二)本文枚數附が同じくないこと、(三)月蝕の表(圖解)が一様でないこと、(四)コロフォンも少し違つてゐることの諸點に存する。今(三)を更に詳しく見ると、オルトロイ第三九番本では前の一五四八年スペイン譯本と同様、一五七六、七七及び七八の三年の月蝕を加へてあるが、オルトロイ第三八番本は四五年版と同じく、一五七三年で終つてゐる。

此の方の版は、前にも言つた様に他版よりは一層多く残つてゐるやうである。併し目録類では、記載が簡單な場合が多く、其の特定の一部が何れの版であるか。確知されないことが多い。オルトロイが擧げてゐる所在の外に、筆者は英國でジョン・ライランズ及び王立文學會の藏書目録から五〇年版『ユスモグラフィア』の存在を知つたが、右の理由で何れの版であるか明らかでない。アバディーン

大學にも五〇年版が一部あるといふが、其もどちらの本か判然しない。また斯様な次第であるから、註記諸家が一五五〇年の果して如何なる版に就て述べてゐるのかも確かであり得ない。此事は特に諒解されたいと思ふ。

此等諸家の記事のうちで注意されるのは、グレゴリイが五〇年版を第三版と記してゐることである。併し此は明らかに何かの誤で、恐らく此までに出来た多くの版をあまり澤山見ずにさう考へたのであらう。またワイドレルが其の『天文学書誌』に、一五三〇年、イフゴルスタット、四折本、……、改訂、アントワープ、一五五〇年、云々と述べてゐるのは、*Introductio* と『コスモグラフィア』とを混同したのではないかと思はれる。¹⁵⁾

(附五) 一五五〇年、バーゼル版

グレーセが始めて擧ぐるところ、彼によれば四折本で、一ターレルで賣買されたことがある。此版に關してハリスは、BMやBNで此を探索させたが見當らなかつたことを述べ、五〇年アントワープ版の標題紙、出版者の記載に“sub scuto Basiliensi”とある其の『バーゼル』を、グレーセは出版地と思ひ違ひしたやうに思はれると説いてゐる。至當な解釋であらう。オルトロイもかういふ版はないと記してゐる。尤もグレーセの考へ違ひにしても、バーセルにエラスムスと關係の深い書賣があつたり

した文化史上重要な事情が、其の誤ちの一つの緣由になつてゐるかも知れない。¹⁶⁾

引用書註記

特に記号をも限り頁数を示す。n. は註、f. n. は脚註。同書註記の中は著書の内容に依りて並列してある。

- 1) Bartlett, I(1875) : 120—21 no 121. Fouzeau et Laucaster : no 566, 2392. Gallois : 103 f. n. 1. Ortroy : 122 no 29. —2) Henderich : 220. Leon Pincelo (1738) : col. 1362. Schwarz : 214 no 3924(4). Wedekind : 142. Grasse, 1 : 159. Trömel : 6, no 11, (129) Sabin, 1 : 231 no 1744. Varnhagen : 38. Bartlett, I (1875) : 122—23 no 124. H. et L. : no 567, 2392. Gallois : 103 f. n. 1. Ortroy : 122—24 no 30; 127. —3) Parnis : 96. Vossius : 253. Henderich : 220. Gregorii : 46. Leon Pincelo, 2(1738) f. MCC. col 5, 1362. Clement, I(1750) : 404 f. n., 405 f. n. Schwarz : 213 no 3916. Baumgarten, 5(1754) : 45, 47 f. n. 1. Bauer, Suppl. I(1774) : 91. Adlung : col 930. Scheibel, 3(1784) : 13—15, 133—34. Kobolt : 49. Kirsner, 2(1797) : 574. Lalande : 60. Grasse, I (1859) : 159. Brunet, I(1860) : col 341—42. Queletet : 84—85. HARRISSE, Bibl. Amer. : 362—63 no 230. Sabin, I(1868) : 231 no 1745. Varnhagen : 38. Bartlett, I(1875) : 123 no 125. Wolf : 265 f. n. 2. H. et L. : no 566, 2392. Gallois : 103 f. n. 1. Ortroy : 125—26 no 31. —4) Ortroy : 126 no 32. —5) Baumgarten, 5(1754) : 45. Adlung : col 960. Kobolt : 49. Grasse, I : 159. HARRISSE, Bibl. Amer. : 379 no 235. Sabin, 1 : 231 no 1747. Varnhagen : 38. H. et L. : no 566, 2392. Gallois : 103 f. n. 1. Ortroy : 92, 92 f. n. 3—4. —6) Du Verdier, Bibliothèque : 980. Clement, 1 : 406 n(18). Wedekind : 142. Adlung : col 930—61. Kobolt : 49. Lalande : 64. Grasse, I : 159. Brunet, 1 : col 341—42. HARRISSE, Bibl. Amer. : 401 no 233. Sabin, 1 : 232 no 1752. Varnhagen : 38. Bartlett, I(1875) : 508 no 592. H. et L. : no 566, 2392. Gallois : 103 f. n. 1. Ortroy : 115—16, 126—28 no 33. Adkinson : 67—68 no 70; 431 fig 50. —7) Ortroy : 128 no 34. —8) Leon Pincelo (1738) : col 1362. Schwarz : 213 no 3917. Adlung : col 960. Scheibel, 3(1787) : 13—15; (1784) :

140. Kobolt: 49. Lalande: 65. Grasse, 1: 159. Trömel: 6 no 13; (129) Quelet: 88. Bartlett, 1(1865): 23; 2(1866): (221) HARRISSE, *Bibl. Amer.*: 407—08 no 262. Sabin, 1: 231 no 1748. Varnhagen: 38. Bartlett, 1(1875): 135—36 no 135. H. et L.: no 566, 2392. Gallois: 103 f. n. 1. Ortoy: 115, 129—31 no 36.—9) H. et L.: no 566, 2392. Ortoy: 128—29 no 35.—10) Leon Pinelo, 2(1738): col 984.—11) Hendreich: 221.—12) Leon Pinelo (1632): 70, 153—74; (1738): col 1362. Hendreich: 220. Brunet, 1: col 341—42. HARRISSE, *Bibl. Amer.*: 429: no 283. Grasse, 7: 39. Sabin, 1: 252—33 no 1753. Varnhagen: 38. Bartlett, 1(1875): 145 no 147. H. et L.: no 566, 2362. Gallois: 103 f. n. 1. Ortoy: 131—32 no 37.—13) Grasse, 1: 139. H. et L.: no 566, 2392. Ortoy: 92, 92 f. n. 3—4.—14) Ortoy: 132—33: 38.—15) Gregorii: 46. Weidler, *Historia*: 370. Schwätz: 213 no 3918. Weidler, *Bibliogr.*: 14. Adeling: col 960. Scheibel, 3: 13—15; (1784): 133. Kobolt: 49. Lalande: 71. Grasse, 1: 159. HARRISSE, *Bibl. Amer.*: 443 no 298. Sabin, 1: 251—32 no 1749. Varnhagen: 38. Bartlett, 1(1875): 148 no 154. Fiorini, *Proji. d. carte geogr.*: 126 n. 2. H. et L.: no 566, 2392. Gallois: 103 f. n. 1. Ortoy: 125—24 no 39.—16) Grasse, 1: 159. HARRISSE, *Bibl. Amer.*: 443 no 299. Sabin, 1: 232. Ortoy: 92, 92 f. n. 3;